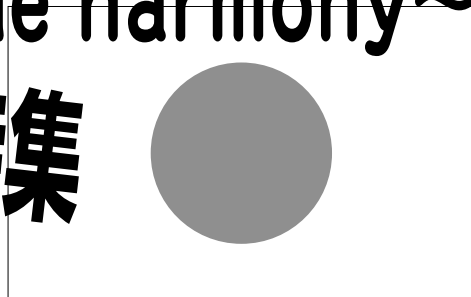
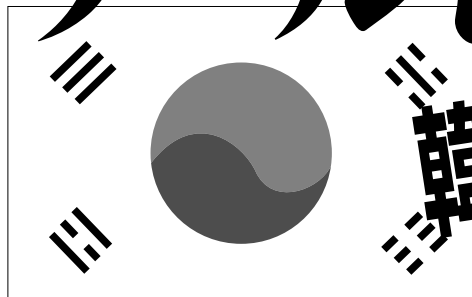




ワールド・マトウリ ~Make true harmony~

韓日共催2002ワールドカップ特集



いよいよ二〇〇二年サッカーW杯まで一年を切った。スポーツ大会としては世界最大規模のサッカーW杯。ますます規模は膨らみ、前フランス大会では世界中で、のべ三億一億人がテレビを通して観たことになり、スタジアムに訪れた観客総数は二七九万人。世界中の国と民族が誇りと威信を賭けてぶつかり合い、『武器を持たない戦争』なんていわれ方もするほど、サッカーという枠を超えて熱狂する。そんな世界のビッグイベントがここ日本で、そして祖国韓国で共催される。確率的に言えば人生で一度あるかどうかの大事件である(韓日共催ということではおそろくもうないだろう)。と今更述べるまでもなく、読者の皆さんもご存知ですよ。でも、何だか盛り上がりにかけているような気がしませんか?せつかくの世界的大祭典。私たちもお祭りの輪の中に入って楽しまなくては損ですよ!

初物づくしの韓日共催
一九九六年五月三十一日、チュウリツヒで開催されたFIFA理事会において、二〇〇二年の第一七回ワールドカップが韓国と日本の二カ国で共催される事が決まりました。この決定をテレビで知り、驚きと喜

びを同時に感じた事をはっきり覚えていません。二十一世紀最初の大会はアジアで開催されること自体が史上初めてであることに加え、二カ国開催も初めてのことである。開催会場の配分、運営の仕方の問題、財政の問題、いわゆるサッカー後進国での開催である事、数え挙げたら切りがないほどの難問が山積みで、素人のわたしから見ても不安いっぱいスタートであったように感じました。ただ、韓国と日本が与えられたこの大きな宿題に一つ一つのハードルをともに越えていったとき、両国の歴史に新しいページが刻まれたとき、劇的に何かが変わる。そんな夢も同時に抱きました。その夢は韓国と日本の、アジアの、そして私たちが在日の大きな夢です。その夢を如何に魅せるか、私たちの晴れ舞台を世界にとつても記念すべき大会にしようではありませんか。

大会の成功は

私たちに懸かっている!

ワールドカップはお祭りです。お祭りに参加する事はそこに住む人たちが得られる特権なんです。皆さんも経験ありませんか?町のお祭りでみこし担いで、踊りまくってメチャクチャ目立ってる人たちを見て



大いに盛り上がる在日サポータースタンド-2002年韓日親善試合-



本大会でのお互いの健闘を誓い固い握手

〇二年には韓国と日本が共催という大きなチャンスを活かして、手を携えて、世界に新しいメッセージを送る番です。メッセージは大会の成功という一つの目標に向かって、二つの国が共に努力するという「友情」と「信頼」です。両国が真の友情と信頼を築き、大会を成功に導く事が韓日の友好関係だけでなく、世界平和

の実現に大きく貢献することを信じています。そして、そのメッセージを届けるのは私たちです。一流のプレイヤーたちの一流のパフォーマンス。一つのパフォーマンスに一喜一憂する人々の笑顔と涙。大会の成功に向かって歩んできた二つの国の自信と誇りに満ちた「顔」があつてこそ、一人一人の胸に強烈に刻まれる感動があるのではないのでしょうか。

私たちは、ペレや馬拉ドーナやジーコやブラティニやどんなスターにだって負けないスーパープレイヤーを魅せることが出来るんですよ。二〇〇二年、私たちは二十一世紀最初のスーパーゴールを決める事ができるでしょう。

W杯自主応援歌
一九九七年から動き出した「Friends in 友情のゴール」普及活動。「アンニョ」でもお馴染みの福田奈々さん(当時何と一三才)が日本全国駆け巡り、昨年は韓国でも大熱唱してきました。韓国と日本が手を携え「架け橋」となっていくことと青年会も取り組んで



ました。手探りでのスタートでしたが、W杯への注目度も高く、日本人の女の子が、チマチヨゴリを着て韓日の架け橋となるべく歌い続ける姿が、新聞各紙に掲載され、CNN ニュース(アジア)では特集として流されるなど、多くのマスコミに取り上げられました。Jリーグの試合前に歌ったり、ラジオやテレビへの出演活動など、地道に展開してきた友情ソングの普及活動が、徐々に成果を見せ、サッカーファンの間ではちょっとした話題になっているとのこと。
「いーま、始まる希望の朝へ

爆裂アジアンパワー!

W杯を盛りたてようとして
青年会も燃えている!

青年会でも四年前から注目して応援してきました。四年前といえば、フランス大会に向けてさあ盛り上がりつつあるというときです。今思えばちょっと気が早かったような気がしないでもないですが……。
来年は青年会も大爆発だ!

魅せる韓日友情パワー!

ワールドカップは多くの人種や民族、国家が注目しています。スポーツの枠を超えて世界中で「サッカー」を合言葉に熱狂し、そこには様々なメッセージが込められ、見るもの全てに感動を与えてきました。
『平和』『愛』『反戦』『共生』『平等』『挑戦』。八二年スペイン

ワールドカップは多くの人種や民族、国家が注目しています。スポーツの枠を超えて世界中で「サッカー」を合言葉に熱狂し、そこには様々なメッセージが込められ、見るもの全てに感動を与えてきました。
『平和』『愛』『反戦』『共生』『平等』『挑戦』。八二年スペイン

ワールドカップは多くの人種や民族、国家が注目しています。スポーツの枠を超えて世界中で「サッカー」を合言葉に熱狂し、そこには様々なメッセージが込められ、見るもの全てに感動を与えてきました。
『平和』『愛』『反戦』『共生』『平等』『挑戦』。八二年スペイン

共催決定から現在までの歩み

| | | |
|-------|----|--------------------------------|
| 1996. | 5 | FIFA理事会で2002年大会の韓日共催が決定。 |
| | 12 | 日本国内開催地として10都市が決定。 |
| | 12 | 韓国組織委員会(KOWOC)設立。 |
| 1997. | 5 | 日韓共催記念試合「日本vs韓国」開催。(於東京) |
| | 12 | 日本組織委員会(JAWOC)設立。 |
| | 12 | 韓国の10開催都市が決定。 |
| 1998. | 4 | 日韓共催記念試合「韓国vs日本」開催。(於ソウル) |
| | 6 | フランス大会開幕。 |
| 1999. | 1 | 「フットボール・エキスポ・カンヌ99」で共同PR実施。 |
| | 2 | 第1回日韓事務総長会議開催。(現在まで計14回) |
| | 5 | 大会公式エンブレムを同時発表。 |
| | 6 | 第1回開催自治体首長会議開催。(於ソウル) |
| | 12 | 予選組分け抽選会開催。(於東京) |
| 2000. | 6 | 欧州選手権(EURO2000)でメディアカクテルを共同開催。 |
| | 6 | 第2回開催自治体首長会議開催。(於横浜) |
| | 7 | 「チャイナ・フットボール2000」で共同PR実施。 |
| | 11 | メディアセミナー開催。(於横浜) |
| 2001. | 2 | 全世界同時にチケット発売開始。 |
| | 4 | メディアセミナー開催。(於ソウル) |
| | 4 | 大会ボランティアの募集を韓日同時に開始。 |
| | 4 | 大会公式マスコットの名称が決定。韓日同時発表。 |
| | 12 | 本選組分け抽選会開催予定。(於釜山) |

大会では、国内の言語の異なる民族間対立が和らいだという例もあります。昨年四なわれたシドニーオリンピックは、二十世紀最後のオリンピックとして注目され、二十一世紀に向けて、後悔と反省を投げかけ、夢と希望を与えてくれた大会であったと賞賛を浴びました。歴史上永遠と続いてきた差別、対立、紛争が二十世紀まで持ち越された全人類共通の課題である事を改めて心に刻み、それでも、多民族国家であるオーストラリアにおいて、全ての人たちが協力し合い、大会に貢献しようとする姿は、「これからの世界中の民族と国家の平和と共生」のすばらしさを感じさせるものであります。二〇

「皆さんも知ってますよね？知らない人は急いでCDショップへ行っても売っていませんので青年会へ。」

狂喜乱舞のスタジアム

伝統の一戦、サッカー韓日戦。過去に何度も対戦してきた良きライバル国です。親善試合、ワールドカップアジア予選であったりと、名勝負を繰り返してきました。両国のサポーターにとっても注目度ナンバーワンです。青年会も在日サポーターの一員として、必ず応援団を編成しスタジアムに駆けつけます。当然青色の服は駄目です。韓国代表のユニフォームを着て応援します。ゴールが決まった瞬間はまさに地響きが起こります。そして、日本サポーターとの応援合戦。試合後はお互いの健闘を讃え合い、エール交換もします。韓国代表が勝ったときは、みんなでやる後片付けも心なしか楽しかったりもします。とにかくテレビで見るとは全く違う迫力があって、まだ一度も行った事がないという人にはお勧めです。

ろん、決勝戦まで上がれば日本での試合になります。決勝戦が「韓国vs日本」なんてことになったら最高ですね。来年はみんなでスタジアムに押しかけ、大騒ぎしましょう！
新聞の見出しは「在日サポーター狂喜乱舞！彼らはフリーガンよりも凄かった！」でどつでしようか。



2000Festa in Fukuoka

二〇〇〇フェスタ

地域でW杯を盛り上げていこうと開催十都市では様々なお祭りやイベントが行われてきました。青年会もサムル演奏や露店などを出店し、青年会のアピールとイベントを賑わす手助けをしてきました。一九九九年には『2000フェスタ』と称して

『アジアに一番近い街福岡』で大イベントを開催し、W杯の成功と真の共生社会を目指してのメッセージを送りました。全国から集まった在日青年と福岡に住む日本のみんなが創ったその場の空気はW杯の成功を予感し、あの時得られた一体感はW杯後も続いていく最良のパートナーである私たちの明るい未来を確信できるものでした。二〇〇二年は間違いない、私たちがとって最高の年になるのではないでしようか。

W杯を盛り立てよう！みんな燃えている！

定住外国人ボランティア ボランティアへの参加を機に、定住外国人の連携を深めようとするボランティアの姜誠さんが「定住外国人ボランティア」(仮称)を呼びかけました。在日韓国・朝鮮人、中国人、ブラジル人ほか二カ国から約一〇〇〇人を集めるのが目標。企業にも協賛をおおぎ、非営利組織(NPO)の申請をして本格的な活動に入ります。「外国人の側からも何らかの役割を果たす事で多文化共生を実現したい。」と語っています。

在日韓国人公式ボランティア事務局

趙靖芳さん談

まずは、日本にはこんなにたくさん外国人がいて、地域社会に根ざして生活しているという事をアピールしていきたい。そして、初めて日本人と在日が同じ目標に向けて共同で作業をしていく過程を経て培われていく真の友情と信頼関係。当然責任も共有していく。その意味で、公式ボランティアとして参与できることは大きな意味があると思っています。過去にも、例えば阪神大震災の時、在日の救援班はいち早く現地で救援活動を行った。でも、日本の人たちには意外と知られていない。協力し合ってやる事で私たちの姿、姿勢をより見てもらえんと思つし、当然責任も伴つ。もっと多くの様々な人が協力し合うことで、何倍にも大きな力になると思つている。この事が共生社会へ向けての大きな一歩になると信じています。